TOTO

組立要領書

2012.8版

浴室TV（14型 2012年度省エネ法対応）

EKK30094/PTZ0060

UB組立編

■TOTO製システムバスルームに取付ける場合は、この組立要領書とシステムバスルーム組立要領書を合わせてご覧ください。

■この組立要領書に記載してあるシステムバスルーム向けの組立要領はTOTOシステムバスルーム用のものです。他社システムバスルームに取付けの際は、各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。

UB組立業者様へ

別冊の組立要領書の 電気工事編 は、電気工事業者様へ確実にお渡しくださいますようお願いします。
また、試運転は電気工事終了後に行いますので、元請店様へ依頼のうえ、別冊の組立要領書の 電気工事編 をお渡しください。

AFKL137N1

目　次

組立の前に	安全上のご注意	1
	工 具	3
	現場必要部材	3
	組立手順	5
	試運転に必要な部材	5
	セット部品の確認	6
	システム図	7
システムバスルーム組立要領	１. 取付位置の確認	9
	２. 壁けがき・穴あけ	9
	３. ケーブルの設置	10
	４. 電源ボックスの設置	10
	５. モニター取付金具の設置	12
	６. モニターの取付け	13
在来浴室組立要領	１. 取付位置の確認	14
	２. 壁けがき・穴あけ	14
	３. ケーブル設置	15
	４. 電源ボックスの設置	16
	５. モニター取付金具の設置	18
	６. モニターの取付け	18
その他	１.浴室オーディオとの接続方法	20
	２.別売品	20
	※ システムバスルーム後付け時のご注意	20

安全上のご注意（必ずお守りください）

組立の前に、
この安全上の注意をよくお読みの上、
正しく据付けてください。

◎この組立要領書では、製品を安全に正しく取付けていただき、使用者への危害や財産への損害および組立業者への危害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味はつぎのようになっています。

⚠ **警告**	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

◎下に示す絵表示は組立要領書や製品に表示して、組立業者の方に安全に正しく製品を取付けていただくものです。
内容をよく理解して正しく取付けてください。

禁　止	この絵表示は、行ってはいけない「禁止」の内容です。
必ず実行	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。
アース線接続	この絵表示は、必ずアース線を接続していただく「強制」の内容です。

◎組立完了後、試運転及び各部の点検を行い、器具のがたつきや漏電・水漏れなどの安全上の不具合が無いことを確かめてください。

◎同梱されている**取扱説明書は、**使用者に製品を正しく安全に使用していただくための**重要な書類**です。 紛失や汚れのないように大切に保管し、組立完了後、**必ず使用者または元請店にお渡しください。**

⚠ 警告

必ず実行

設置は、組立要領書にしたがって確実に行う
設置が不完全な場合、感電や火災などの原因となります。
また、漏水により家財などを汚したり、腐らせるおそれがあります。

禁　止

交流100V以外は使用しない
感電や発熱・火災の原因となるおそれがあります。

アース線接続

電気工事は関連する法令・法規にしがたって、必ず「有資格者（電気工事士）」が行う
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

必ず実行

漏電遮断器が取付けられていることを確認する
もし取付けられていなければ電気工事店へ依頼して必ず取付けてください。
感電するおそれがあります。

必ず実行

開梱後、不要になった梱包材はすみやかに処分する
段ボールや締付バンドなどでケガをするおそれがあります。
また、ビニール袋などは子供などがかぶって遊び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁　止

製品の改造や分解は行わない
火災や感電、落下による傷害のおそれがあります。

⚠ 注意

必ず実行

組立に使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、容器などに記載の注意表示にしたがって、正しく使用する
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因につながるおそれがあります。

必ず実行

機器の取付けは、確実に行う
止水不良による漏水のおそれがあります。

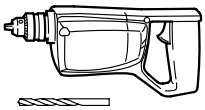
⚠ 取付け前のご注意

- テレビ取付けの際、必要に応じ壁裏補強を実施してください。
- スチームサウナ等、高温（50℃を超える）になる場合には取付けはできません。
- 浴室乾燥機のある浴室に取付ける場合は、温風が浴室テレビに直接あたらない場所をお選びください。
- 屋外から直射日光のあたる場所への取付けは避けてください。
- 薬品を使用するなど通常環境と異なる場所への取付けはできません。
- 正面から浴室テレビを見ることができる位置に取付けてください。
- 受信可能チャンネルは地上デジタル放送001～999です。
  BS、CS放送等のチューナーは内蔵していません。
- このテレビは日本国内のみで使用できます。
  外国では、放送方式・電源電圧が異なりますので使用できません。

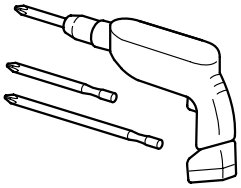
工　具

※在来浴室への取付けには、下記以外の工具が必要となる場合があります。
現場に合わせて、工具を準備してください。

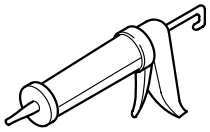
□:電気工事で使用するもの



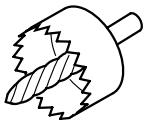
電動ドリル
ドリル刃φ2.8、
φ6（φ50下穴用）



□:ドライバービット
⊕短・長 No.2・3（先端サイズ）
電動ドライバー（トルク調整機能付）

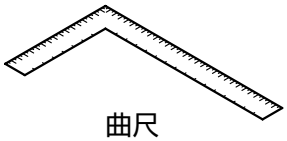


コーキングガン



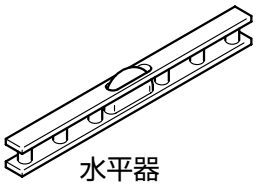
ホルソー
φ50

樹脂ハンマー

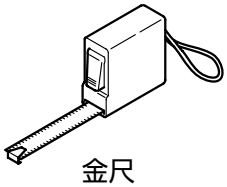


曲尺

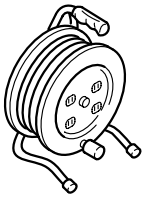
□:短寸のドライバー
（100mm以内）
⊕No.2（先端サイズ）



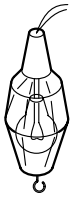
水平器



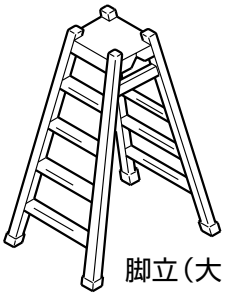
金尺



コードリール

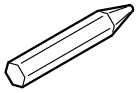


作業灯



脚立（大・小）

※TOTO製システムバスルームに取付ける場合。



特殊ポンチ
EKL01025

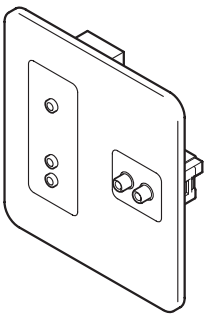
現場必要部材

※お客様がテレビと外部機器の接続を希望される場合は、
取付けに必要となりますので別途手配ください。

⚠注意

必ず実行

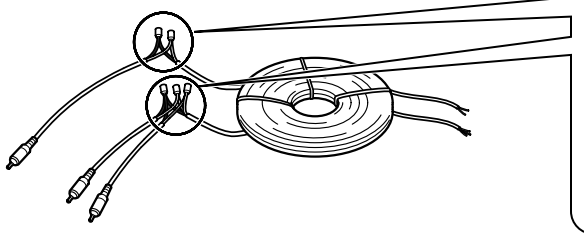
- 高周波同軸ケーブル（映像用）/OFCシールド線（音声用）＋市販のRCAピンプラグ接続コード、OFCシールド線（外部コントロール用）＋市販のφ3.5モノラルミニプラグ接続コードはそれぞれ合計20m以内にしてください。
  20mより長いと浴室テレビのリモコンで外部機器を操作できない場合があります。



部品	数量
AV用信号コンセント （パナソニック製 WN4822　相当品）	1
オーディオ用信号コンセント （パナソニック製 WN4821　相当品）	1
取付枠 （パナソニック製 WN3710　相当品）	2
プレート（プレートカバー、プレート枠） （パナソニック製 WN6074W　相当品）	1

※壁コンセント設置時は、電力配線と弱電流電線を分離してください。

外部入力用ケーブル

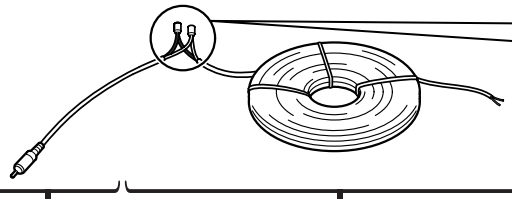


市販のRCAピンプラグ接続コード（映像×1、音声×2）（※1）に高周波同軸ケーブル3C-2Vまたは3C-2VS（映像用）・OFCシールド線（メガネ平行シールド線）芯線断面積0.23mm²以上（音声用）を圧着し、使用してください。
（※1の長尺品をカットしての使用も可。ケーブルを接続する場合は必ず合計20mm以内としてください。）

RCAピンプラグ
接続コード（市販品）

映像用:日立電線（株）製　高周波同軸ケーブル3C-2Vまたは3C-2VS　相当品
音声用:パナソニック製　オーディオ用シールド線AD-RDAFW**　相当品
※ **は長さを示します。（15:15m、30:30m、45:45m、60:60m）

外部コントロール用ケーブル



市販のφ3.5モノラルミニプラグ接続コード（※2）にOFCシールド線（1芯または2芯）芯線断面積0.1mm²以上、外径φ2.7以上（外部コントロール用）を圧着し、使用してください。
（※1の長尺品をカットしての使用も可。ケーブルを接続する場合は必ず合計20mm以内としてください。）

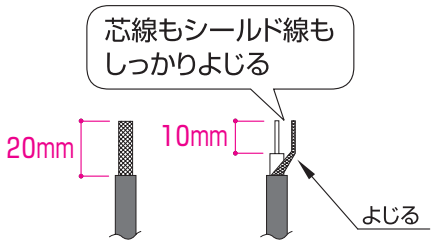
φ3.5モノラル
ミニプラグ
接続コード（市販品）

外部コントロール用:日立電線（株）製　UL2552-SW　2×26AWG（7/0.16）LF　相当品

TOTOでは外部入力用ケーブル（15m）と外部コントロール用ケーブル（15m）をセットでご用意しています。
（品番: [UB用] EKK30095／[在来用] PZ6117）

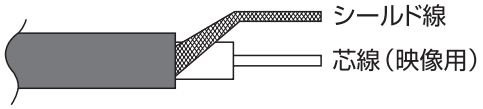
外部入力用ケーブル・外部コントロール用ケーブルの処理方法

ケーブルの切断した端を右図のように処理しておきます。
外皮は20㎜、芯線は10㎜ほどむいておき、しっかりよじっておきます。

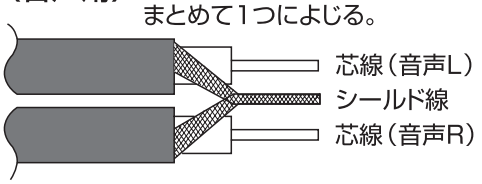


外部入力用ケーブル

〈映像用〉シールド線と芯線（映像用）をそれぞれしっかりよじっておく。

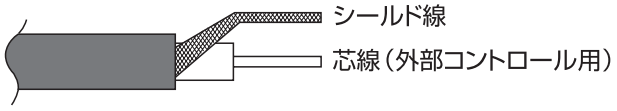


〈音声用〉芯線（音声L,音声R）をそれぞれよじり、シールド線は芯線の間でまとめて1つによじる。

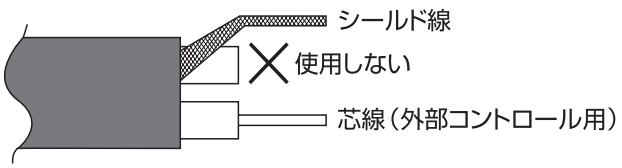


外部コントロール用ケーブル

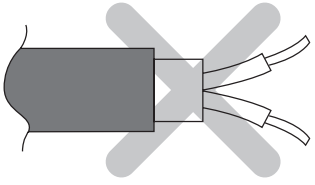
1芯の場合　シールド線と芯線（外部コントロール用）をそれぞれしっかりよじっておく。



2芯の場合　シールド線と芯線（外部コントロール用）1本をそれぞれしっかりよじっておく。

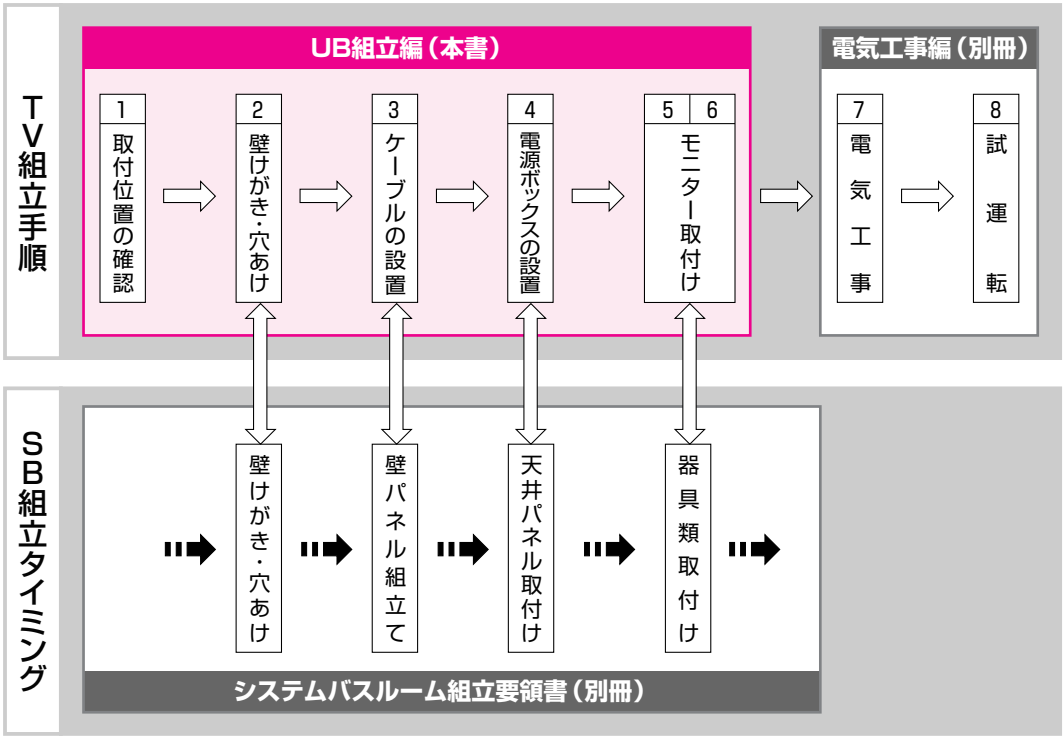


※シールド線を使用せずに、2芯のケーブルを2本使用すると、故障や動作不良の原因となります。



組立手順

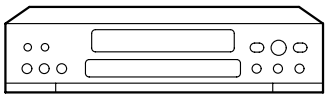
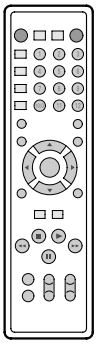
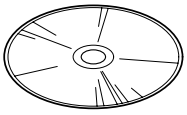
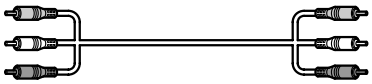
※システムバスルーム取付けの場合は、システムバスルーム組立にあわせて取付けてください。
※在来浴室取付けや後付けの場合は現場にあわせて変更してください。



試運転（元請店実施）に必要な部材

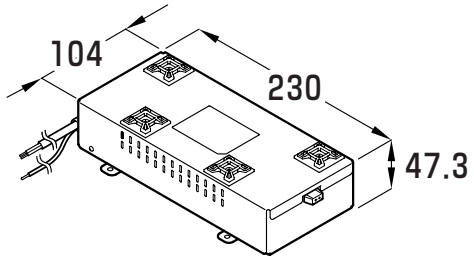
お客様がテレビと外部機器の接続を希望される場合のみ必要です。

リモコン付の映像機器（DVDなど）

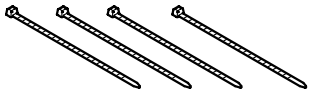
本体	リモコン	再生するDVDなど
		
AVコード		
		

セット部品の確認

電源ボックス

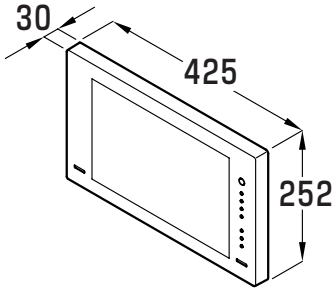


結束バンド
※電源ボックスに同梱　4本

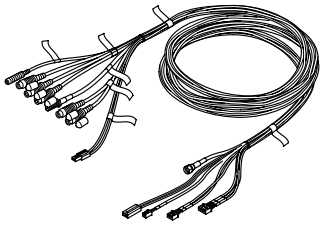


ビスカバー

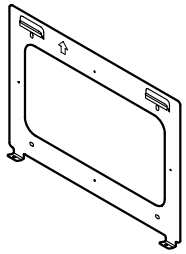
防水モニター（以下モニター）



モニター中継ケーブル
（3500mm）

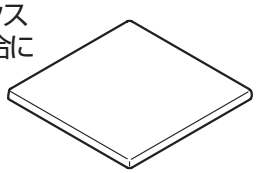


モニター取付金具



別梱包

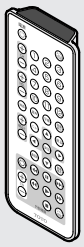
補強鋼板 EKG31153
平天井（発泡断熱材付き）、アーチ天井（電源ボックス設置面に段差有り）の場合に付属する。



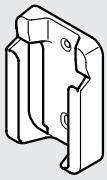
- モニター取付金具取付ねじ　4.2×25、4本
- モニター取付ねじ ※ビスカバーに同梱　3×5、2本
- 樹脂製アンカー　φ4用、4本
- アルミテープ　W50×L150
- 組立要領書［UB組立編］（本書）
- 組立要領書［電気工事編］（電気工事店様引渡し部品）
- 電気工事ちらし ※電源ボックスに同梱

**★リモコン、リモコンホルダー、ボタン型電池、取扱説明書、外部コントロール用変換ケーブル、LEDケーブルは、使用者または元請店に確実にお渡しください。
また保管の際は直射日光のあたる場所（窓際など）に置かないでください。**

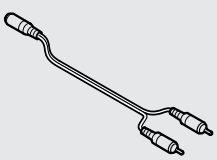
防水リモコン（以下リモコン）
（お客様引渡部品）



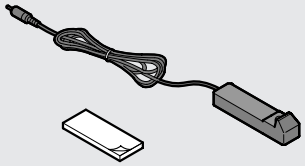
リモコンホルダー
（お客様引渡部品）



外部コントロール用変換ケーブル
（お客様引渡部品）



LEDケーブル
（お客様引渡部品）



（両面テープ:1枚）

ボタン型電池 CR2032　※ リモコンに同梱
（お客様引渡部品）

取扱説明書　（お客様引渡部品）

システム図（テレビ接続部分）

⚠注意

必ず実行

• 落雷に備えて、アンテナ設備にアースを取るか、保安器を必ず設置してください。

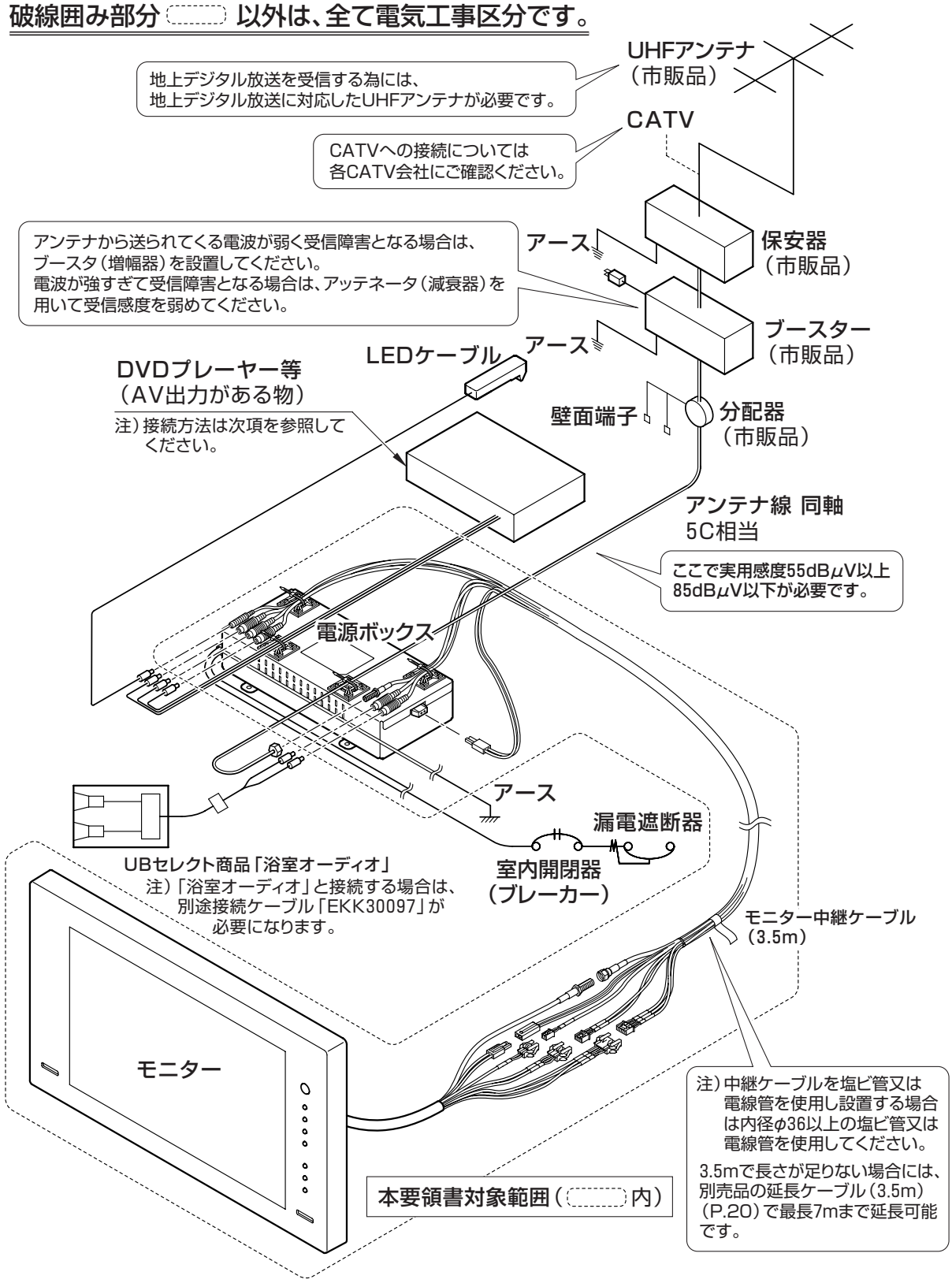
⚠注意

必ず実行

• 取付の際は、必ず屋内開閉器（ブレーカー）と漏電遮断器を設置してください。

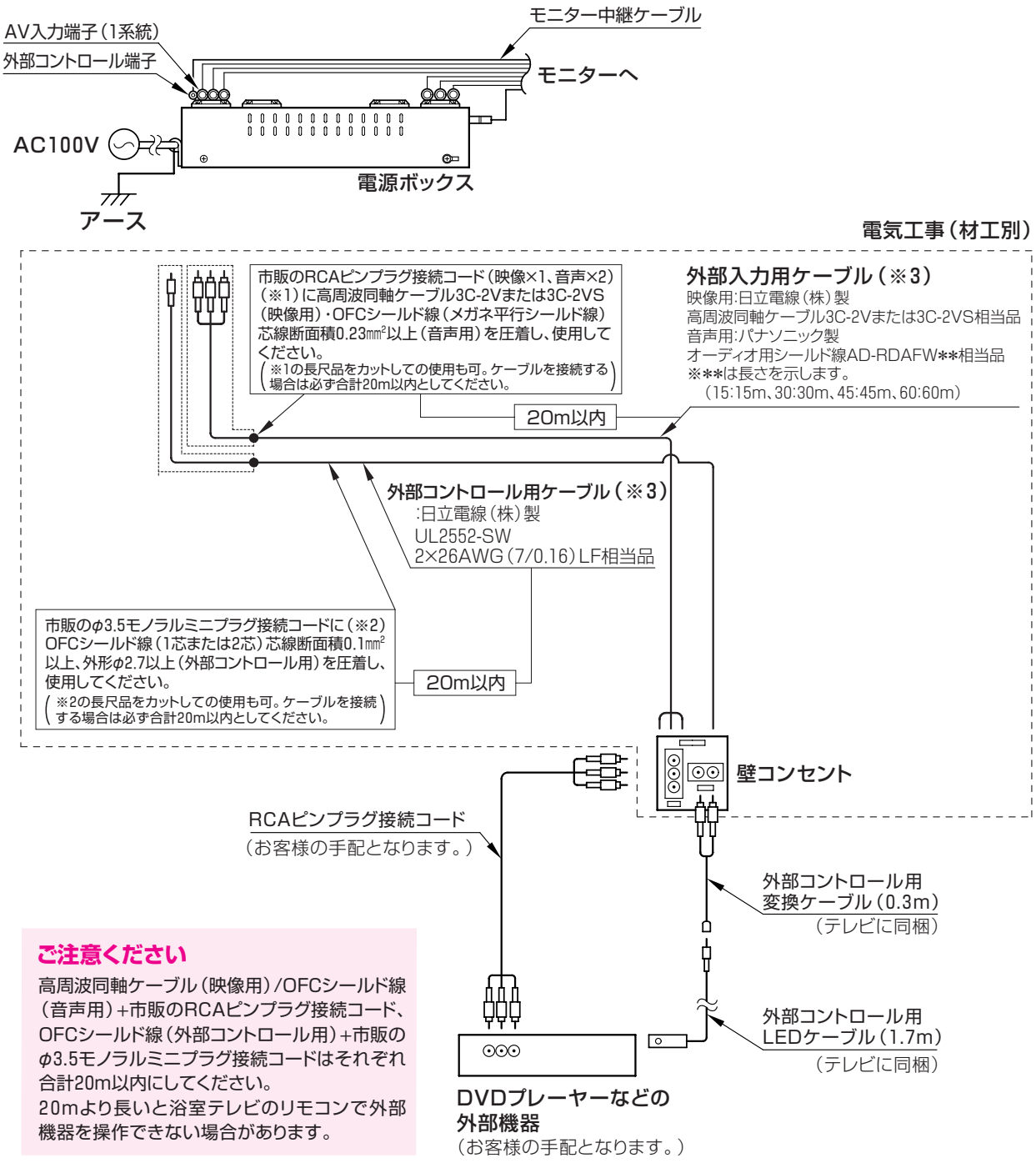
※電気工事で配線します。

破線囲み部分（　　）以外は、全て電気工事区分です。



システム図（外部機器接続部分）

内が電気工事店様の作業範囲となります。



ご注意ください

高周波同軸ケーブル（映像用）/OFCシールド線（音声用）+市販のRCAピンプラグ接続コード、OFCシールド線（外部コントロール用）+市販のφ3.5モノラルミニプラグ接続コードはそれぞれ合計20m以内にしてください。
20mより長いと浴室テレビのリモコンで外部機器を操作できない場合があります。

（※3）TOTOでは外部入力用ケーブル（15m）と外部コントロール用ケーブル（15m）をセットでご用意しています。（品番:［UB用］EKK30095／［在来用］PZ6117）

⚠注意

【設置前にご確認ください】

必ず実行

- 電源ボックスから壁コンセントまでのケーブルは合計20m以内としてください。
  ケーブルが届く範囲に壁コンセントを確実に設置できるか確認してください。
- 壁コンセント設置位置はお客様と十分ご相談してください。
  壁コンセントから外部機器までケーブル長さ（合計2m）の制限があります。
- 電源ボックスから壁コンセントまで壁裏ケーブル配線が可能か確認してください。

システムバスルーム組立要領

1 取付位置の確認【システムバスルーム】

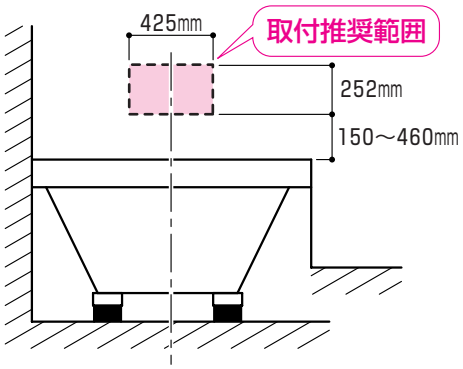
TOTO製システムバスルーム取付けの場合のテレビ取付要領を記載します。
在来浴室組立ての場合は、P.14「在来浴室組立要領」へお進みください。

【壁パネル加工図に位置指定がない場合/お客様から変更のご希望があった場合に実施】

モニター取付位置は取付推奨範囲を参考にして、浴槽の中からモニターを正面に見ることのできる位置に決めてください。

壁パネル加工図の浴室テレビモニター取付位置は、「浴槽の中から」「風呂いすに座った状態」「浴槽リムに座った状態」を想定し、いずれの場合も見やすい位置を浴槽正面の取付位置としていますが、取付推奨範囲を参考にお客様の希望の位置に変更することが可能です。

浴室テレビモニターの下側にカウンター等がある場合（スプリノAタイプで浴槽正面取付の場合など）は、モニター下端から100mm程度離してください。

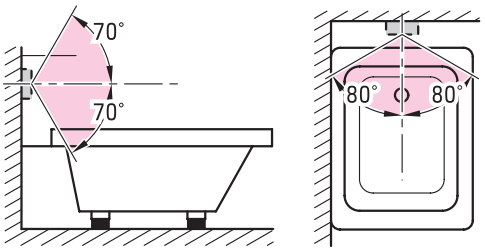


中継ボックスの届く範囲内に電源ボックスを設置してください。3.5m以上必要な場合は、別売品のモニター延長ケーブル（3.5m）（P.20）を使用していただくと、最長7mまで延長可能になります。

⚠ 注意

必ず実行

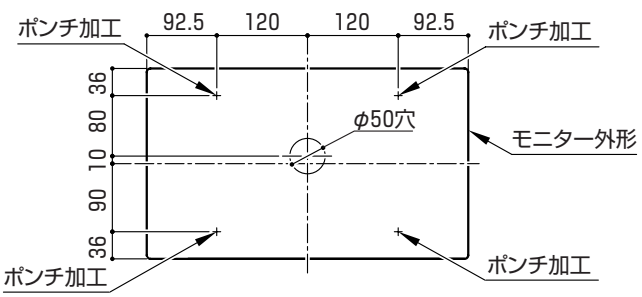
- モニターの視野角（よく見える範囲）は上下70°、左右80°です。
- 水栓金具や壁裏配管などとの取合いに十分ご注意ください。
- 浴室暖房機のある浴室に取付ける場合は温風が直接あたらない位置に取付けてください。
- 直射日光のあたる場所へは取付けないでください。
- 見る角度によって画面が見えにくい場合は、リモコンのメニューから画面の明るさを調整して見やすい輝度にしてください。（取扱説明書 P.19）

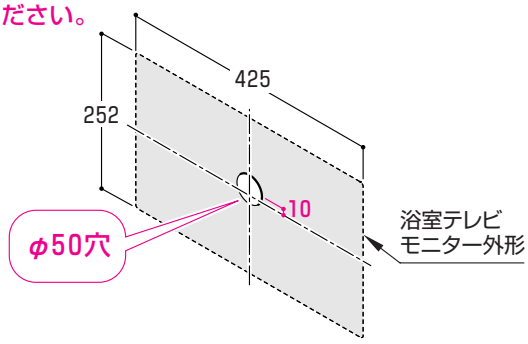


2 壁けがき・穴あけ【システムバスルーム】

①システムバスルーム壁パネル加工図の浴室テレビ取付位置をけがき、穴φ50を開ける。
「1 取付位置の確認」で取付位置を決めた場合、φ50穴加工位置はモニター中心位置の10mm上に開ける。

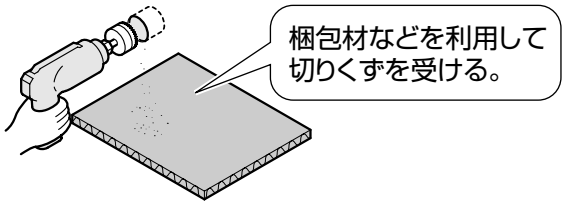
※他社システムバスルームに取付けの場合には、ねじの下穴加工が必要になります。
詳しくは、各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。





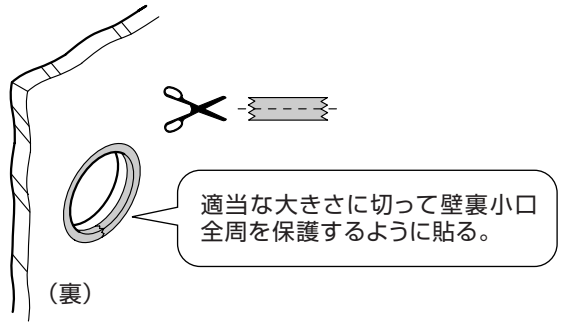
注意

穴あけ後は、浴槽内の清掃を行ってください。
もらいサビの原因となります。



2 壁けがき・穴あけ【システムバスルーム】（つづき）

②壁裏側小口にアルミテープを貼る。

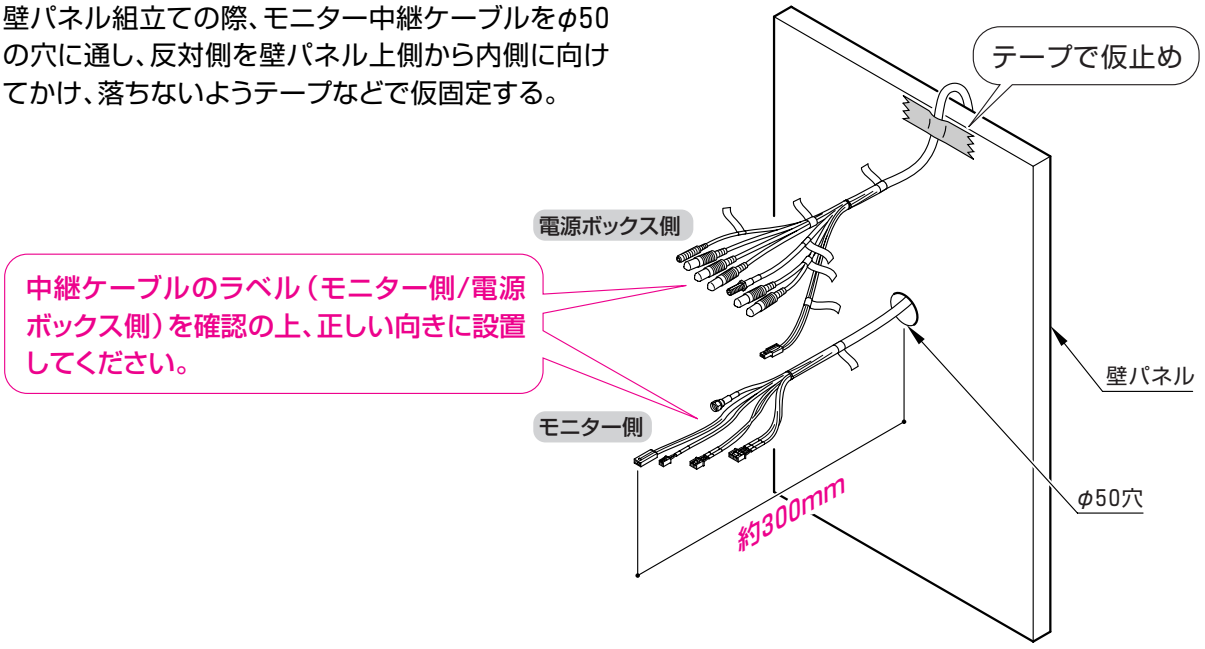


注意

- コード類の保護のため、必ず壁裏側小口にアルミテープを貼ってください。
- アルミテープは表に出ないようにしてください。表に出たアルミテープにより防水性能が保持できなくなるおそれがあります。

3 ケーブルの設置【システムバスルーム】

壁パネル組立ての際、モニター中継ケーブルをφ50の穴に通し、反対側を壁パネル上側から内側に向けてかけ、落ちないようテープなどで仮固定する。



4 電源ボックスの設置【システムバスルーム】

⚠警告

禁止

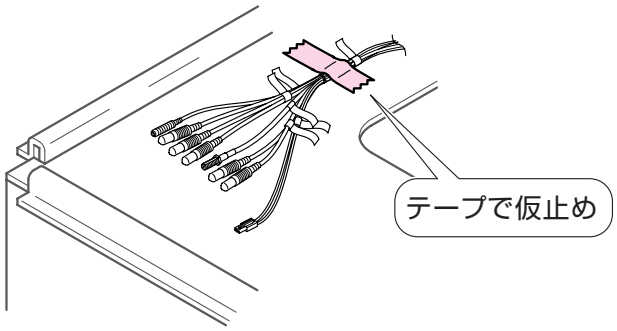
電源ボックスの上や横をグラスウールなどの保温材で覆わない
電源ボックスの上へは換気ダクトを設置しない
機器の故障や火災・漏電の原因となります。

注意

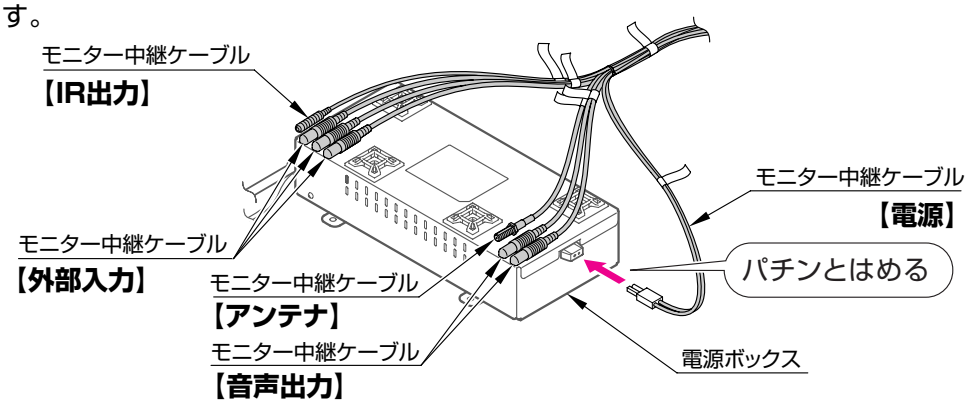
- 電源ボックスは必ず点検できる位置に設置してください。
- 中継ケーブルはなるべく他の電気機器から遠ざけて配線してください。
- 両面テープで貼付ける際、貼付け面のほこりなどをあらかじめ掃除してください。
- 電源ボックスに貼付けてあるのは電気工事用のちらしです。電気工事まではがさないでください。
- AV入力及び音声出力をしない場合は、ケーブルのキャップを外さないでください。
- 天井の電源ボックス設置部にグラスウールなどの保温材がはってある場合は、約300×350程度はがし、天井に直接電源ボックスを設置してください。

4 電源ボックスの設置【システムバスルーム】（つづき）

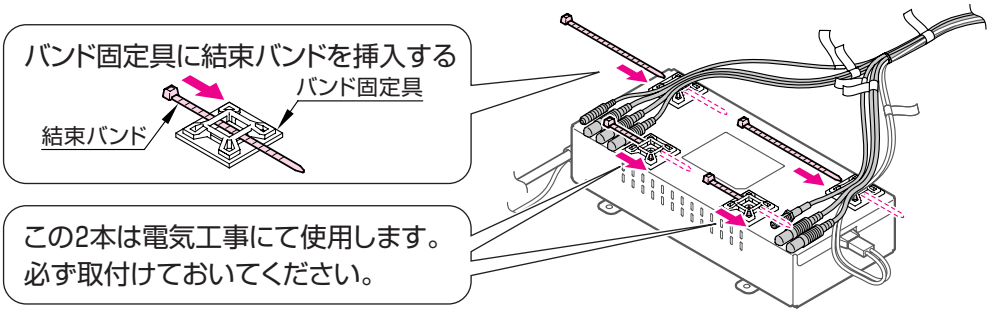
①天井パネル取付けの際、中継ケーブルを落とさないように天井裏面に取りまわし、
落ちないようテープなどで仮固定する。



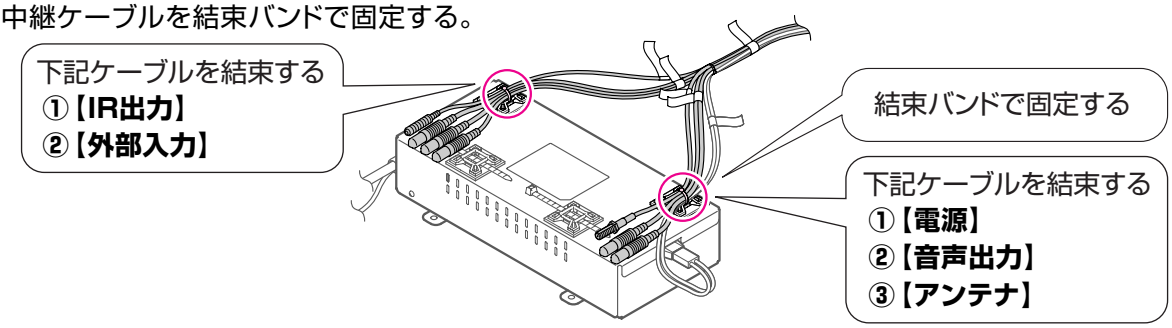
②電源ボックスにモニター中継ケーブル【電源】のコネクタを接続し、下図のようにケーブルを
取りまわす。



③電源ボックスの上面に付属の結束バンド（4本）を取付ける。



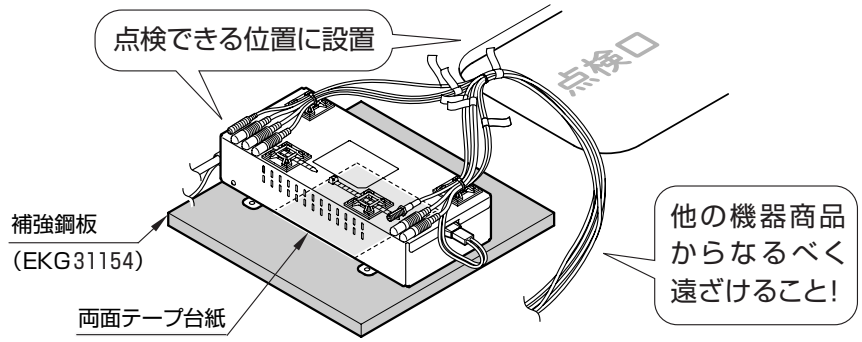
④中継ケーブルを結束バンドで固定する。



4 電源ボックスの設置【システムバスルーム】（つづき）

⑤中継ケーブルを天井裏にある他の機器商品からなるべく遠ざける。
※近い場合には電波障害を受けるおそれがあります。

⑥下図を参照し、電源ボックスと補強鋼板を天井裏の所定の位置に仮置きする。
※平天井（発泡断熱材付き）又は、アーチ天井（電源ボックス設置面に段差有り）の場合に付属。

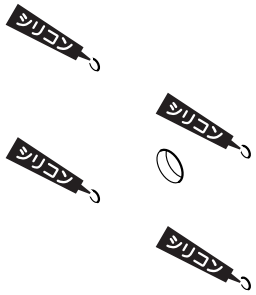


●HA／HB／HD／WF・WTシリーズの電源ボックス設置位置については、各システムバス本体の組立要領書を参照ください。

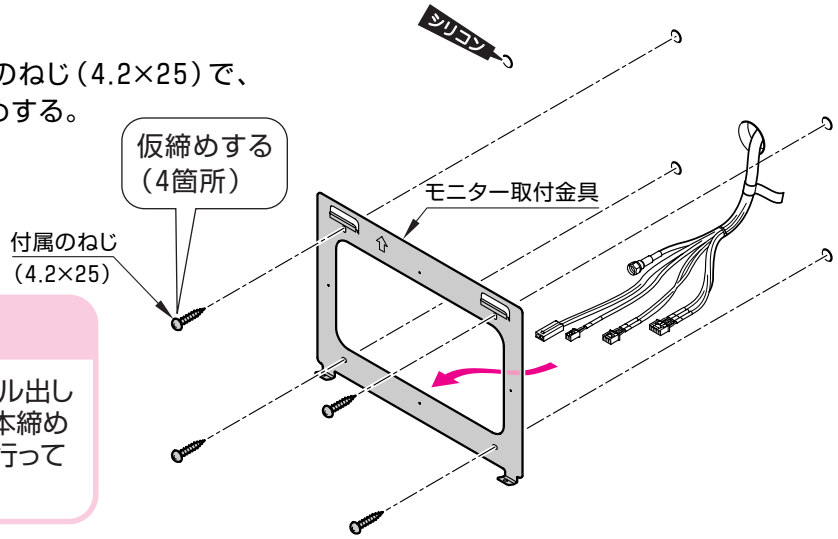
⑦位置が決まったら、補強鋼板の裏面の両面テープの保護紙をはがし、補強鋼板を固定する。
⑧電源ボックスの裏面の両面テープの保護紙をはがし、電源ボックスを固定する。

5 モニター取付金具の設置【システムバスルーム】

①「2　壁けがき・穴あけ」①のポンチ加工部にシリコンを塗布する。



②モニター取付金具に付属のねじ（4.2×25）で、モニター取付金具を仮締めする。

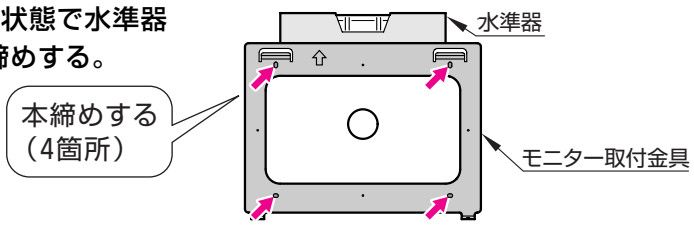


⚠ 注意

必ず実行

- このあと水平レベル出しを行いますので、本締めはせず、仮締めを行ってください。

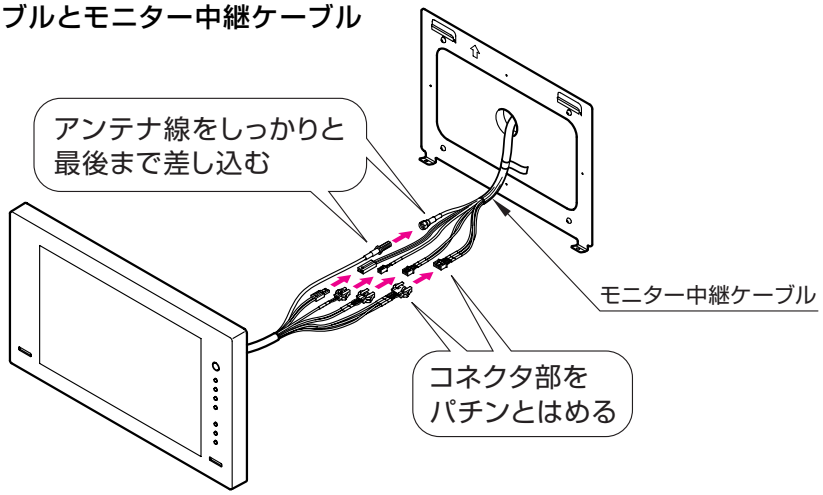
③モニター取付金具を仮設置した状態で水準器で水平を出しながら、ねじを本締めする。



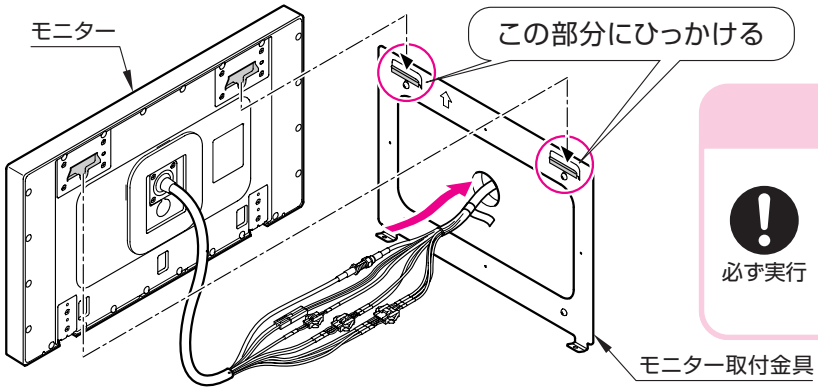
6 モニターの取付け【システムバスルーム】

タイル壁の場合は、P.18「5.モニターの取付金具の設置【在来浴室】」へお進みください。

①モニターに付属のケーブルとモニター中継ケーブルを接続する。



②壁裏にケーブル類を納めながら、モニターをモニター取付金具にひっかける。

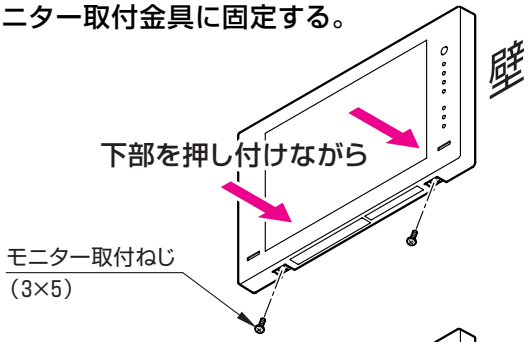


⚠注意

必ず実行

- モニター取付金具に確実に取り付けてください。
  モニターが落下し、破損するおそれがあります。

③モニターを壁側へ押しつけながら、モニター取付ねじ（ビスカバーに同梱）でモニターをモニター取付金具に固定する。

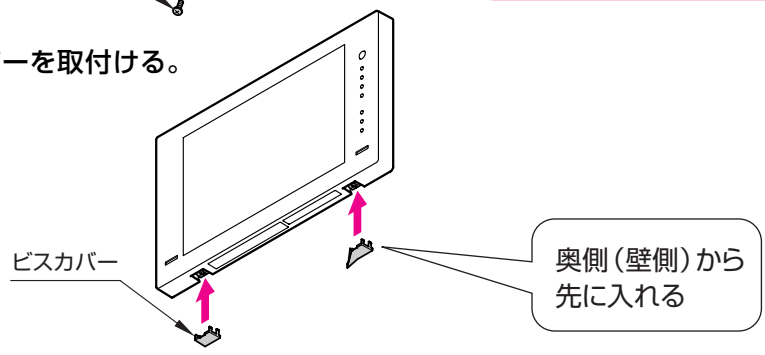


⚠注意

必ず実行

- ねじの締付けは、必ず手締めで行ってください。
  電動ドライバーを使用するとねじ部が破損するおそれがあります。

④ビスカバーを取付ける。



※TOTO製システムバスルームの場合には、モニターへのシリコン塗布は必要ありません。
他社システムバスルームに取付けの場合には、各システムバスルームメーカーにお問い合わせください。

在来浴室組立要領

1 取付位置の確認【在来浴室】

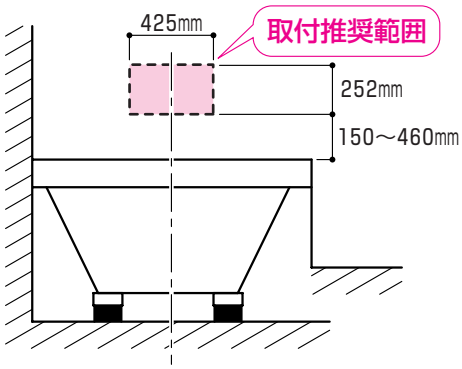
TOTO製在来浴室取付けの場合のテレビ取付要領を記載します。
システムバスルーム組立ての場合は、P.9「システムバスルーム組立要領」へお進みください。

【壁パネル加工図に位置指定がない場合/お客様から変更のご希望があった場合に実施】

モニター取付位置は取付推奨範囲を参考にして、浴槽の中からモニターを正面に見ることのできる位置に決めてください。

壁パネル加工図の浴室テレビモニター取付位置は、「浴槽の中から」「風呂いすに座った状態」「浴槽リムに座った状態」を想定し、いずれの場合も見やすい位置を浴槽正面の取付位置としていますが、取付推奨範囲を参考にお客様の希望の位置に変更することが可能です。

浴室テレビモニターの下側にカウンター等がある場合（スプリノAタイプで浴槽正面取付の場合など）は、モニター下端から100mm程度離してください。

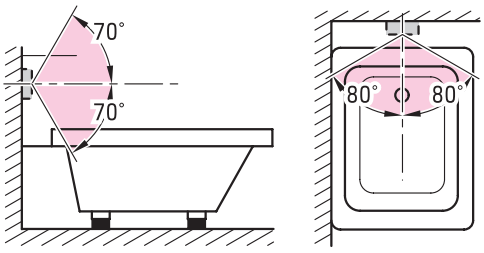


中継ボックスの届く範囲内に電源ボックスを設置してください。3.5m以上必要な場合は、別売品のモニター延長ケーブル（3.5m）（P.20）を使用していただくと、最長7mまで延長可能になります。

⚠注意

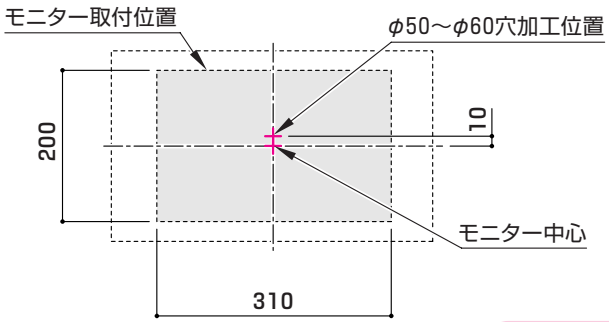
必ず実行

- モニターの視野角（よく見える範囲）は上下70°、左右80°です。
- 水栓金具や壁裏配管などとの取合いに十分ご注意ください。
- 浴室暖房機のある浴室に取付ける場合は温風が直接あたらない位置に取付けてください。
- 直射日光のあたる場所へは取付けないでください。
- 見る角度によって画面が見えにくい場合は、リモコンのメニューから画面の明るさを調整して見やすい輝度にしてください。（取扱説明書P.19）



2 壁けがき・穴あけ【在来浴室】

①モニター取付位置をけがき、モニター中心とモニター中心位置の10mm上にφ50～60穴加工位置を下記寸法でけがく。



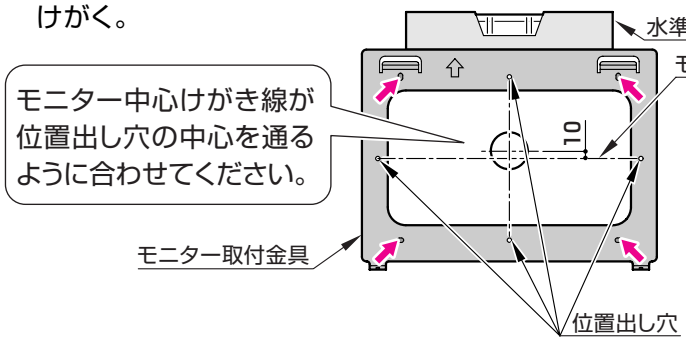
⚠注意

必ず実行

- φ50～φ60穴加工位置はモニター中心位置より10mm上になります。

2 壁けがき・穴あけ【在来浴室】（つづき）

②モニター取付金具を壁にあてた状態で水準器で水平を出しながら、固定用ねじ位置（4カ所）をけがく。



⚠注意

必ず実行

- φ50～φ60穴加工位置はモニター取付金具の中心ではありません。必ず上記要領で取り付けてください。

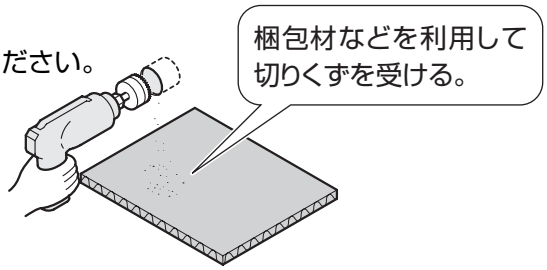
※取付ける壁の材質によって取付強度を確保できない場合は、壁裏補強材を使用してください。

③φ50～φ60穴を①のけがき線の中心にあけ、固定用ねじ位置に下穴をあける。

壁面に直接ねじで固定できる場合はφ2.8。
同梱の樹脂製アンカーを使用する場合はφ6にしてください。

注意

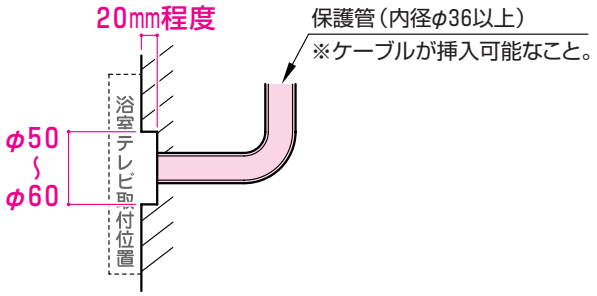
穴あけ後は、浴槽内の清掃を行ってください。
もらいサビの原因となります。



3 ケーブル設置【在来浴室】

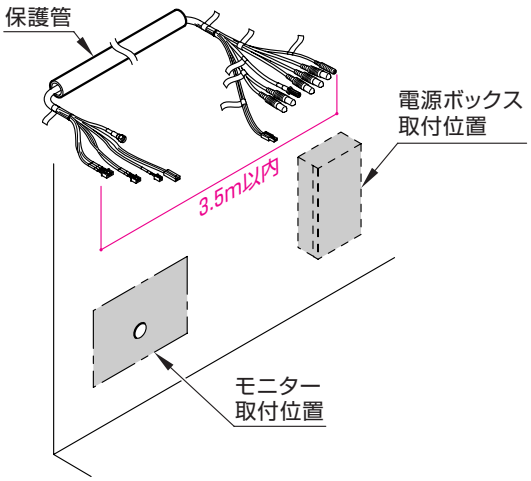
屋内配線の場合

〈モニター中継ケーブル〉
壁にφ50～φ60の空間を設け、ケーブル類を通す保護管を設置してください。



屋外配線の場合

モニターに付属のケーブル取出し位置付近から電源ボックス設置位置付近まで配線する。



⚠注意

必ず実行

- 付属のモニター中継ケーブルの長さは3.5mです。
  ケーブルの届く範囲内に電源ボックスを設置してください。3.5m以上必要な場合は、別売品のモニター延長ケーブル（3.5m）（P.20）を使用していただくと最長7mまで延長可能になります。
- ケーブルは必ず内径φ36以上の保護管の中を通してください。環境により劣化が早まるおそれがあります。
- 屋外壁開口部には、雨水の浸入のなきようコーキング等を実施してください。
- コネクタは防水仕様ではありませんので、必ず防水処置を行ってください。

4 電源ボックスの設置【在来浴室】

屋内設置の場合

⚠警告

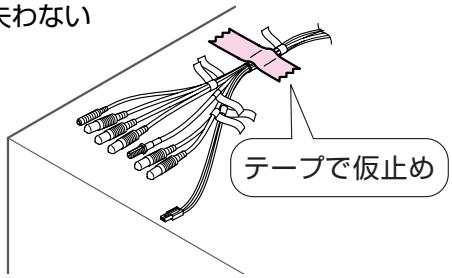
禁 止

電源ボックスの上や横をグラスウールなどの保温材で覆わない
電源ボックスの上へは換気ダクトを設置しない
機器の故障や火災・漏電の原因となります。

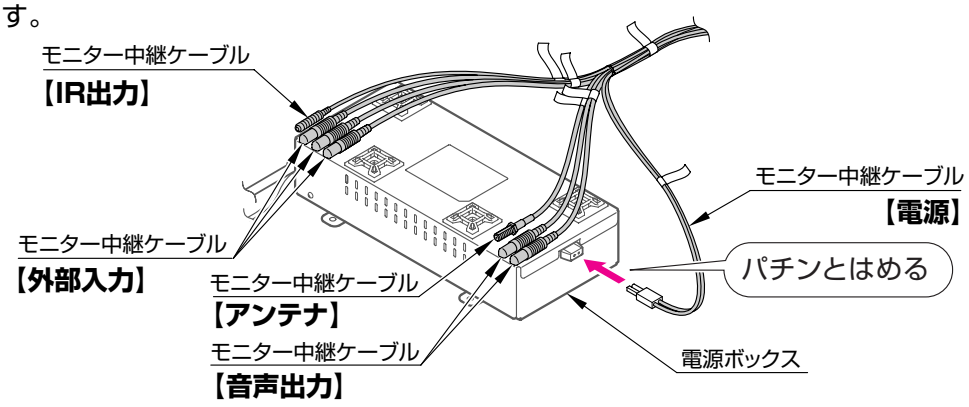
注意

- 電源ボックスは必ず点検できる位置に設置してください。
- 中継ケーブルはなるべく他の電気機器から遠ざけて配線してください。
- 両面テープで貼付ける際、貼付け面のほこりなどをあらかじめ掃除してください。
- 電源ボックスに貼付けてあるのは電気工事用のちらしです。電気工事まではがさないでください。
- AV入力及び音声出力をしない場合は、ケーブルのキャップを外さないでください。
- 天井に保温材が貼ってある場合には電源ボックス設置部の保温材を約300×350程度はがし、天井に直接電源ボックスを設置してください。

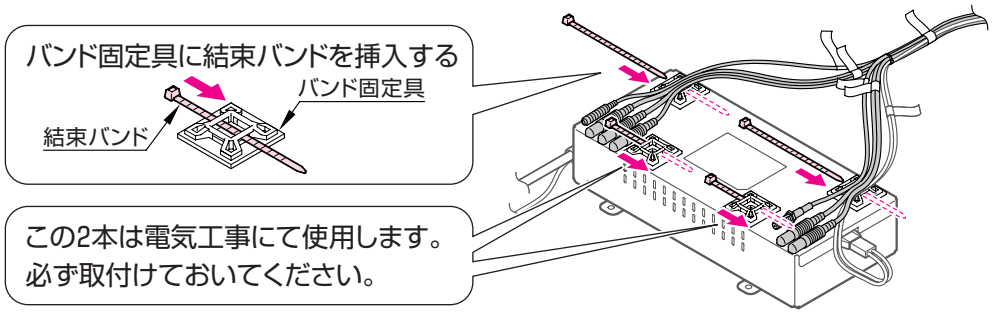
①電源ボックスに接続するまでは、モニター中継ケーブルを見失わないように、天井裏面や梁などにテープなどで仮固定する。



②電源ボックスにモニター中継ケーブル【電源】のコネクタを接続し、下図のようにケーブルを取りまわす。

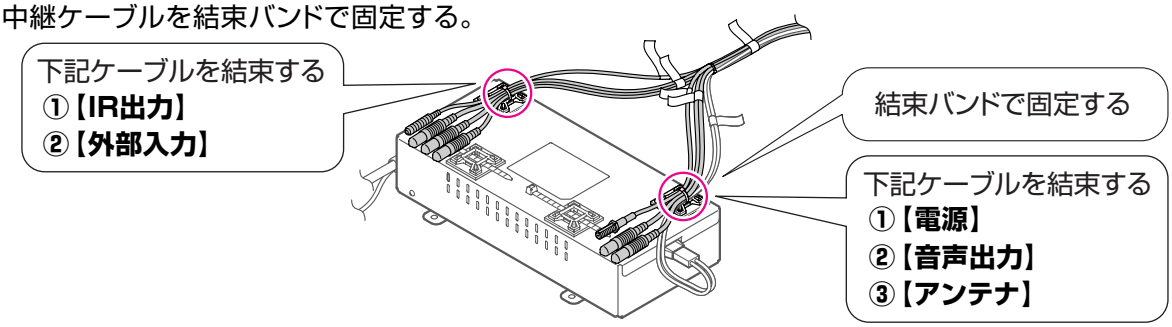


③電源ボックスの上面に付属の結束バンド（4本）を取付ける。



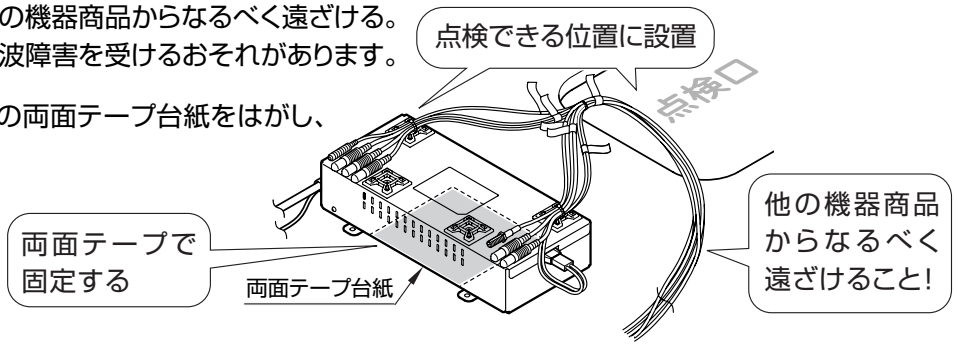
4 電源ボックスの設置【在来浴室】（つづき）

④中継ケーブルを結束バンドで固定する。



⑤中継ケーブルを他の機器商品からなるべく遠ざける。
※近い場合には電波障害を受けるおそれがあります。

⑥電源ボックス下面の両面テープ台紙をはがし、貼付け固定する。



屋外設置の場合

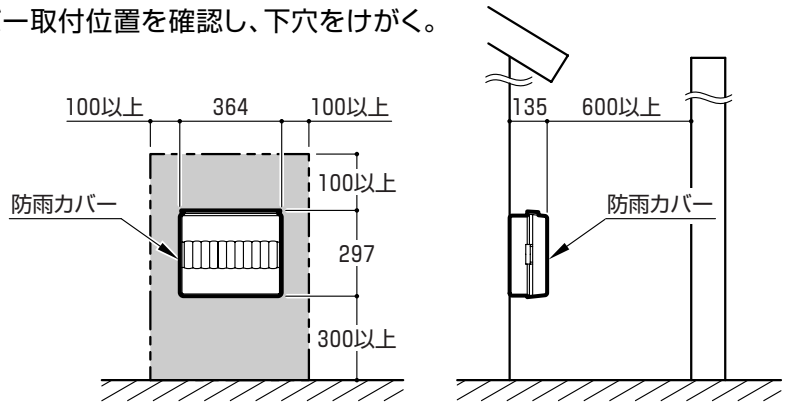
⚠警告

必ず防雨カバーを取付ける

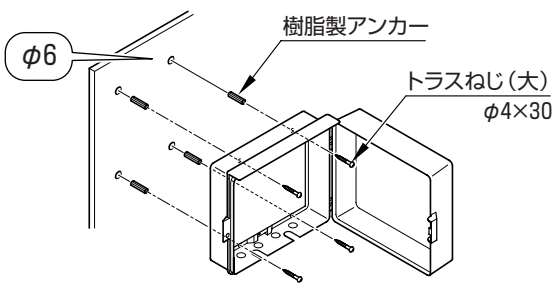
必ず実行

- 屋外設置の場合は必ず防雨カバーをご使用ください。電源ボックスは防水仕様ではありませんので感電など事故のおそれがあります。
- コード類の長さを考慮して取付位置を決めてください。
防雨カバーは別売品（PZ6032）にてご用意しております。

①防雨カバー取付位置を確認し、下穴をけがく。



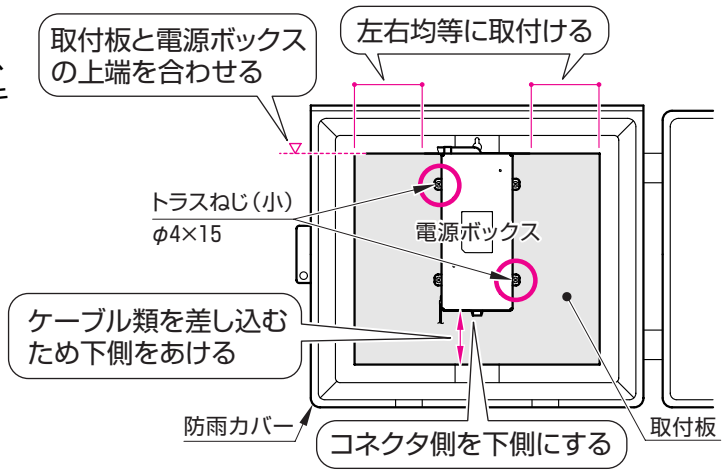
②下穴（φ6）をあけて取付位置に樹脂製アンカーを打ち込む。
③防雨カバーをトラスねじ（大）で固定する。



4 電源ボックスの設置【在来浴室】（つづき）

④電源ボックスに付いている取付固定穴（4ヵ所）を使用して電源ボックスを防雨カバーにトラスねじ（小）2本で電源ボックスの対角を固定する。

※電源ボックスは端子側を下側にし、図のように防雨カバー内にガタツキのないように取付けてください。



5 モニター取付金具の設置【在来浴室】

①「2　壁けがき・穴あけ【在来浴室】」③の固定用ねじ穴加工部にシリコンを塗布する。

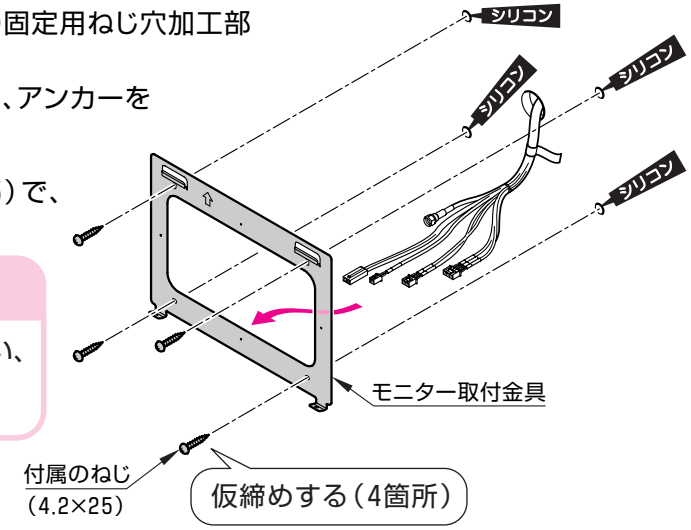
※同梱の樹脂製アンカーを使用する場合は、アンカーを樹脂ハンマーで打ち込んでください。

②モニター取付金具に付属のねじ（4.2×25）で、モニター取付金具を仮締めする。

⚠ 注意

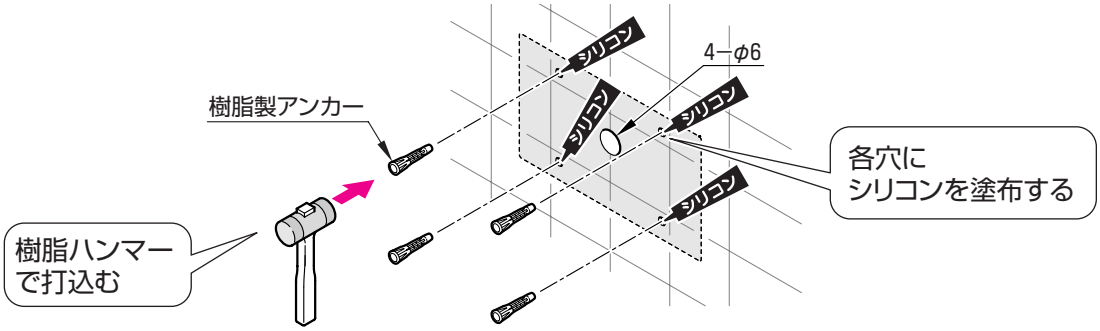
必ず実行

- このあと水平レベル出しを行い、ますので本締めはせず、仮締めを行ってください。

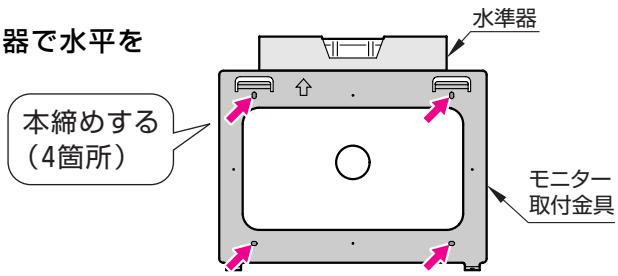


【タイル壁の場合】

※タイル壁設置の場合は、下穴を開け付属の樹脂製アンカーを使用してください。

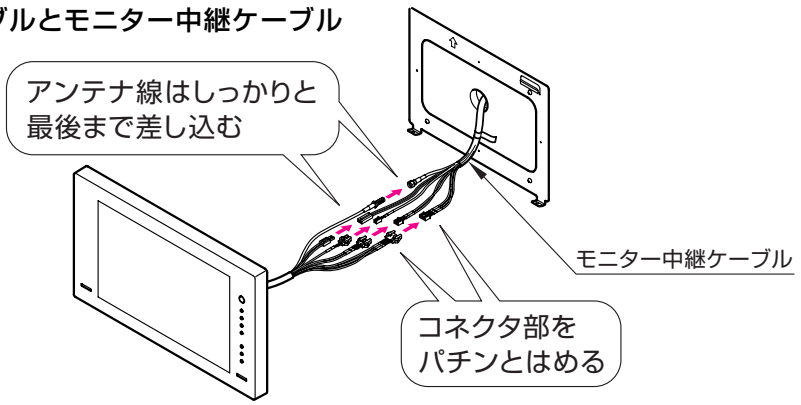


③モニター取付金具を仮設置した状態で水準器で水平を出しながら、ねじを本締めする。

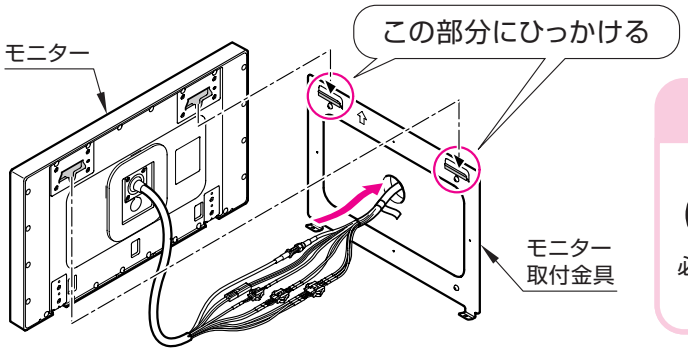


6 モニターの取付け【在来浴室】

①モニターに付属のケーブルとモニター中継ケーブルを接続する。



②壁裏にケーブル類を納めながら、モニターをモニター取付金具にひっかける。

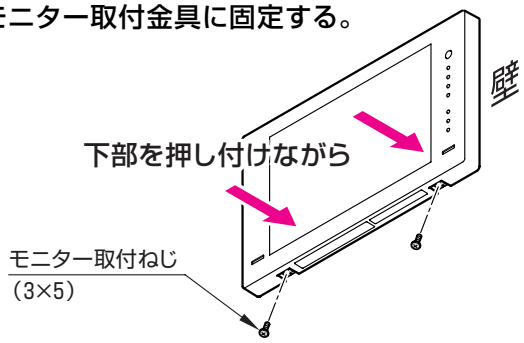


⚠注意

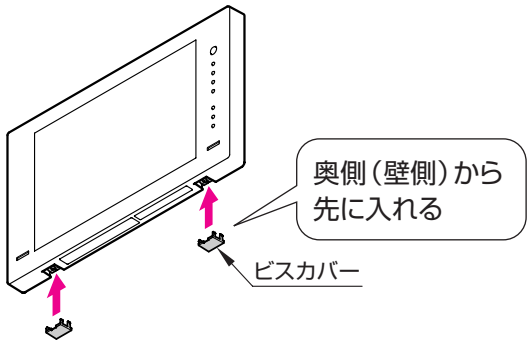
必ず実行

- モニター取付金具に確実に取り付けてください。モニターが落下し、破損するおそれがあります。

③モニターを壁側へ押しつけながら、モニター取付ねじ（ビスカバーに同梱）でモニターをモニター取付金具に固定する。



④ビスカバーを取付ける。



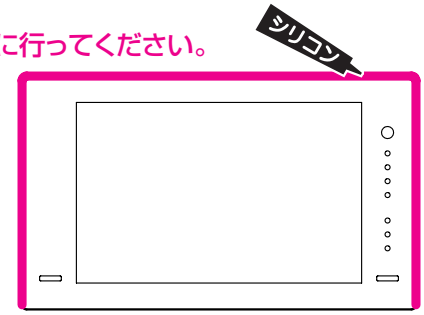
⚠注意

必ず実行

- ねじの締付けは、必ず手締めで行ってください。
  電動ドライバーを使用するとねじ部が破損するおそれがあります。

④モニターの下辺を除く3辺にシリコンを切れ目なく塗布する。

※在来浴室の場合、壁材質が不明確なため、シリコン塗布は確実に行ってください。



⚠注意

必ず実行

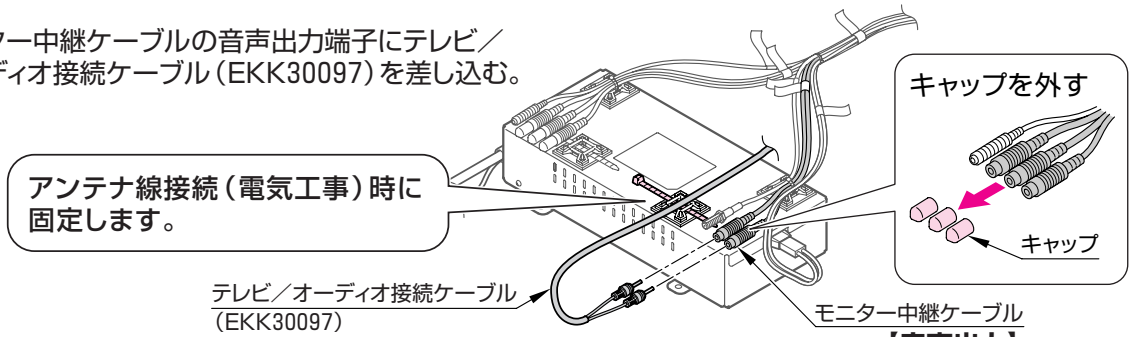
確実な塗布を行う

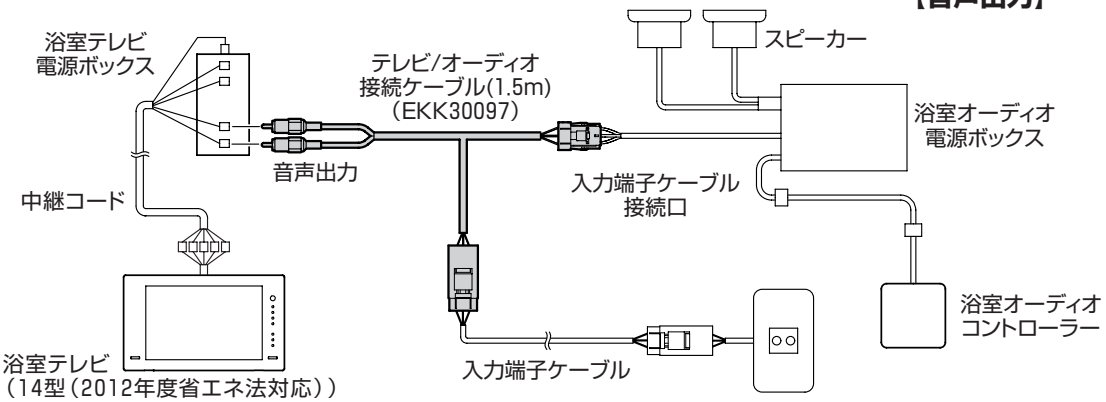
- 塗布が不備の場合は、モニター内に水が侵入し故障する原因となります。
- 使用するシリコンの色は基本的に白としてください。

その他

1 浴室オーディオとの接続方法

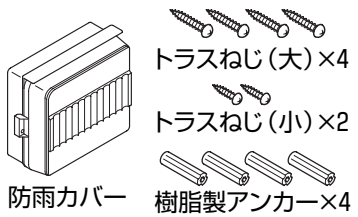
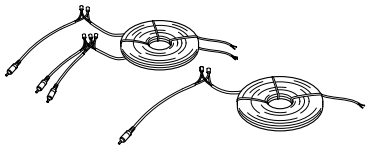
モニター中継ケーブルの音声出力端子にテレビ／オーディオ接続ケーブル（EKK30097）を差し込む。





※浴室オーディオの取付けについては浴室オーディオの組立要領書を参照してください。
※テレビ/オーディオ接続ケーブルの取付けについては、テレビ/オーディオ接続ケーブルに付属の組立要領書を参照してください。

2 別売品

品 名〈 品 番 〉	必要数	形　状	用　途
防雨カバー〈PZ6032〉	1		電源ボックスを屋外設置する場合に必要です。
外部コントロール用ケーブルセット（15m）〈【UB用】EKK30095〉〈【在来用】PZ6117〉	1		お客様がテレビと外部機器の接続を希望される場合に必要となります。（市販品使用も可能です。） ※P.3・4参照
モニター延長ケーブル（3.5m）〈【UB用】EKK30096〉〈【在来用】PZ6105〉	1		モニター中継ケーブルを延長する場合に必要です。 ※中継ケーブルはモニター延長ケーブルを使用することによって最長7mまで対応可能になります。（それ以上の延長はできません。）

※システムバスルーム後付け時のご注意

●穴あけ前に必ずケーブル類の配線スペースがあることを確認してください。
●穴あけ位置にシステムバスルーム壁裏配管やケーブル類、建築側柱など干渉物がないことを確認してください。
●ケーブル類の壁裏配線は針金などを使用し実施してください。
　この際、ケーブル類を傷つけないようご注意ください。

TOTO